

【東浪見甚句歌詞】

（ハア キタサツサ ヨイサツサ

ハ コラサツト チヨイサ）

ハア （東南の方角）
エナサ沖から

飛んで来るか（かこみ）
（コラサツト）

明日は大漁と飛んで来る

（ハア キタサツサ ヨイサツサ

ハ コラサツト チヨイサ）

ハア 東浪見よいとこ一度はおいで
鱈の塩焼ただかせる

ハア 東浪見恋しや軍荼利様よ
森が見えますほのぼのと

ハア わたしや九十九里荒波育ち
と云うて鯛の子ではない

ハア かこみ来て鳴け東浪見が浜へ
今日も大漁の旗の波

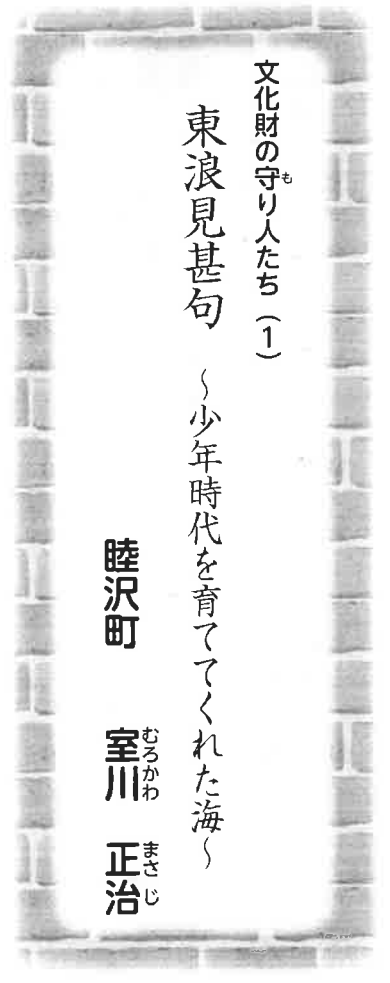
ハア 太東岬で入隈見れば
明日も大漁か鳥の群

※入隈・・・漁場の呼び名の一つ

文化財の守り人たち（1）

東浪見甚句 〈少年時代を育ててくれた海〉

睦沢町 室川 正治



近年、全国的に少子高齢化が進み、文化財・伝統文化の担い手不足が大きな課題となっています。官民間わず文化財の保存は大きな岐路に立たされています。

世代交代による文化財の流出や消失、維持管理費の増大等、地域の歴史・伝統文化を取り巻く環境は厳しくなっていると言わざるを得ません。

このような時代の流れの中で、伝統文化を守り、次世代に受け継ぐために活動をしている方々がいます。このコラムでは不定期ですが、そのような方々を紹介していきます。

今回は東浪見甚句の伝承、普及啓発事業に尽力している室川正治さんから寄稿をいただきましたのでご紹介します。

記：学芸員 江澤一樹

私は昭和20年一宮の海に近い農家に生まれました。

一宮中学校を卒業し、神奈川県横須賀市にある陸上自衛隊少年工学校に入校しました。

私が物心ついたころは「もはや戦後ではない」などと威勢のいい時代でしたが、テレビは近所の「稲花酒造」に一台あるのみで、夜になると子どもたちは当たり前のように座敷に上がってテレビを見ておりました。

また、海岸は「白砂青松」の名のごとく延々と続く松原そして広い砂浜の見事な風景が広がっております。

子どもたちは水遊び・野球・凧揚げ等にかこつけて浜で遊んでおりました。

一方大人たちは、夏場になると生活の糧を得るため地引網を盛んに行っておりました。小さな船で荒海

に繰り出すさまは、まさに命がけであり、男衆・女衆は気合いを合わせお互いの身を守るため必死で頑張っておりました。

また男衆の勇壮な姿には大いなる憧れを持ちました。

私は自衛官として、北は北海道登別市、南は福岡県久留米市と全国各地で40年間暮らしてまいりましたが、何かにつけて思い出すのは広い海原、そして地引網の大漁を願った「東浪見甚句」でした。

先頃新聞、ミニコミ誌で私が「東浪見甚句」のCDを無料で提供する記事が掲載されましたが、理由は単純。「少年時代を育んでくれた海」への、そして当時の大人への感謝です。

CDご希望の方は、室川（090-17803-4737）までお申し出ください。



【問合せ】教育課 ☎(42)1416